



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第6回例会(8月10日)
平成30年8月24日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本広行
川徳デパート内 幹 事 藤村吉隆
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 吉田幸一
例 会 日 毎週金曜日12時30分~ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…バリー・ラシン
盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、驚いていこう奉仕と友情-坂本広行



会員卓話

わたしの「三丁目の夕日」時代 パートⅡ

岩野 法光 君

この間、「三丁目の夕日」ということで、少しお話をさせてもらいました。今回、プログラム委員長の海野会員から「続きをやってくれ」ということだったんですが、続きって特になんですけど。実は、海野会員から言われると、ちょっと断りづらい雰囲気がありまして、前にも話したと思いますが、海野会員のお兄さんと私は、小学校の同級生だったんです。「伸さん」というんですけど。

前回、話をしましたが、私、寺の下という下町に住んでいたんです。そのときに海野さんのお兄さんとは小学校の同級生ということで、遊びに行ったことがあったんですよ。ハッキリ記憶がないんですが、一カ所、すごく記憶にあるのは、伸くんに案内されて行ったところが、要するに絵を描くところでした。私がいる下町で絵を描くというのは、まだすごいことでしたので、「何だ?」と言ったら、「お父さんが(絵を)描いているんだ」ということで、のちのちわかるんですけど「アトリエ」というところで、お父さんが(絵を)描いている。お父さんは、あとでわかったんですけど「海野」さんという有名な画家の方。そのアトリエに行って、遊んだ記憶がある。で、「お父さんが帰ってくると邪魔になるから」というので、そこから退散したということなんですけど。

その隣からは、今度はピアノの音が聞こえてくるんですよ。ビックリしましたね。絵を描くところがあって、隣からはピアノが聞こえてくる。「すごいところに海野さんは住んでいるな」と思ったんです。で、ピアノを弾く方は、あとでわかっ

たんですが、うちの母の同級生だった。で、いわゆる二高の同級生。わかったのは、母親の時代の人たちって「二高」って言わないんですよ。「白梅」って言うんですよ。(母に)「白梅の同級生だった」と言われて、あとで見に行っていたことがあったんですけど。で、その旦那さんというのが…きょう、持って来ようと思って忘れたんですが…盛岡に雑誌『まち もりおか』50周年になるという…そのときに、創刊したときに、有名な作家の方とかいたんですが、その中に恩田さんという方がいらした。その方は、庶務係などを全部やっていた方で、その方が結局、原則にうるさい方で、アルゼンチンか、どこかに住んでいたというような人でした。そういう人が、今の「まち もりおか」の雑誌の基礎を築いたというようなことでございます。海野会員の自宅では、そういうことがあったんで、目の前で「話をしてくれ」と言われると、断りづらいというのは、そういうことでございます。

それで、余談の余談ですけども、隣の隣の自宅が、いわゆる駒木進会員の奥さんの自宅なんです。で、駒木さんは…いないから言いますが…小学校からの純愛なんです、あの2人は。珍しいですよ、小学生からいっしょで、今もいっしょで。妙に仲が良いんですよ。奥さんは、その時代からそういうことで。たぶん、海野会員はよくご存知だと思いますが、そういうことがありました。

私たちは、この間、お盆の話など、いろいろしましたけど、「私らが小さいときは何をやったのか」と思って、いろいろ考えました。少し生活に余裕

ができてきて、習い事をしてもいいという時代。絵とかピアノということはありませんけど、まずそろばん・習字なんですね。これを大体、私たちが小さい頃の習い事の双璧です。私らの中では。習字のほうは、先ほど言った駒木会員の叔母さんになるのかな…駒木葬祭のときの2階で、教えていたので、私はそこに通いました。で、そろばんは…今は使っていないのかな？ 久昌寺の隣に、「サンタモニカ」って言った。いや、これは私、昔仕事でやっていたから覚えていただけで、今は使ったことはありません。そこのところに道路ができるまでは材木屋さんがあって、いわゆる倉庫の2階に、そろばん教室があったんですよ。で、回りにいる連中が「いっしょに習いに行こう」ということで、「まあ、良いよ」ということで行ったんですけど、そこの先生は…今の岩手放送さんの後ろに大きいマンションがありますけど、そこに貯金局というのが昔、あったんですよ。そこの貯金局の職員の方で、公務員なのかな？ 夕方、(仕事を)早く終わったと思うんですけど、火・木・土が5時半ぐらいから、約1時間ですよ。次は、月・水・金のやっぱり同じ時間。それは、火・木・土が初級のほう、月・水・金は中級。それから上手くなると、火・木・土のちょっと遅い時間から始まる。で、月・水・金の遅い時間、4つの教室をやっていたんですね。周りの友だちが、私をなぜ誘ったのか、あとでわかるんですけど。そういったことで、そろばんをやって。で、初級を卒業できなくて、誘った人たちはみんな挫折したんですけど、私は好きだったんですよ、そろばんが。それで、いろいろやっているうちに面白くなってきて、それで、やるようになったんです。大慈寺小学校だけでなく。それ以外の小学校からも習いにきていたんですが、交流も楽しかったんだと思います、そういうことだったんですけど。小学校4年ぐらいかな、始まったのは。

で、小学校5年ぐらいの頃から、そろばんの授業があって、そろばんの授業が始まったときに。なぜ、覚えているのかというと、そろばんの授業の最初の日、私はそろばんを忘れたんですよ。それで、今のバスセンターのところに自宅が建っていましたので、小学校からすぐにバス乗ろうと思ったんですよ。なぜか。で、生まれて初めてバスに乗ったんですよ。それで、覚えているんですよ、授業のことを。で、小学校のそばに祖母が住

んでいましたよ。一番下の伯父と暮らしていて。お金を借りて、というか、もらって。で、バスに乗ったんですけど。バスセンターというのは、必ず南から来るヤツが全部通ると聞いていたので、「どれに乗っても大丈夫だ」と思って乗って、それからそろばんを取って、今度は来るときにバスセンターでどこ行きに乗って、どこで降りればいいのか、聞いて、行ったんですよ。それは、たしか昼休みだった。で、寒かった頃の記憶があるんです。だから、「そろばんを取りにいかなければならない」という頭のほうが強くて、そのときに寒かったんですけど、手袋なんてしていないんですよ。で、手袋をしなくて昼休みギリギリで帰って、一番の授業。そろばんをはじく。手が動かないんですよ。火・木・土のレベルの初級位だったかな？ だから、普段であれば小学校の授業で出る問題は、自慢して言えば全部、できるはずなんですけど、手が動かなくて全然ダメだった。それで、そのへんの人たちと同じような点数だったんですけど、そのあとから、ずっと百点だったんです。で、先生が気づいて。常に百点だから、先生に呼ばれて「私の代わりにやる？」って言う訳ですよ。「代わりをやれ」と言われてビックリしましたが、前にも話をしましたが、私はスポーツはダメ。「運動会」というと、みんなが喜んだですよ。私が「ビリだから良い」という感じでしたから。勉強もできる訳ではない。「寺の下の坊ちゃま」と言われていましたから、ホントにそうだったんですから。それが、いきなり「先生の代わり」と言われて、みんな、ビックリしたんですよ。それから、もうひとつ、有名なことがあった。

実は、前にも話をしたと思うんですが、私の場合は姉との間に2人、死んでいるので、一番上と私で。その一番上の姉がその頃、東京のドレメだったかな…洋裁を習っていたので、そのときに。洋裁をやっているときに、私にシャツを作ってくれますよ。長袖…半袖だった。今は、非常にお洒落なんですけど、その当時はなにせ、ピンクとかグレーとか、エンジ・赤・グリーンで模様の入った生地ですから。ところが50何年前の下町の小学校。その頃、黒かグレーか、白しかないんですよ、色は。そういったところに、それを着ていかなければならないというのは、まあ困りましたね。小学校に行くとき、まとまって行く訳ですけど、そのまとまったところに行った瞬間から、全員が「な

んだ、そのシャツ」というふうに目が刺さってくる訳ですよ。それで学校に行ったら、もう「なんだ、それ」っていう感じで。一日、下を向いていたんですよ。それで有名になりました。さらに決定的だったのは、冬に…私の頃は「アノラック」と呼んでいましたね…それをみんな、黒とか買うときに、姉がグリーンの物を買ってしまった。グリーンに嫌な予感はしていたんですよ。で、学校に行ったら、案の定、同じクラスの女の子が着ていた。もう、それで終わりですね。その冬の間中、そのことをズーッと言われていましたね。そんなことで、変なことで有名だったんです。それが「先生の代わりにやる」となった。

で、先生の代わりに始めの合図をやり、採点して、返すということをやったんです。それで「こいつ、変だけど、そろばんだけは妙に上手いな」というふうに評判になったんです。で、小学校6年生のときに、珠算教室の先生が「ちょっと、集まりがあるから、行こう」と言って、みんなを呼ばれて行ったんですよ。で、行ったのが珠算教室。今でもあるのかな？ 本町のところに関谷珠算学校。そこに集められて。そしたら大会みたいなものがあったんですね。考えたら、そこで…あの当時は、暗算というものがあったんですね。そろばんを使わないヤツ…。普段はそろばんを使うんですが、それをやった。で、暗算をやったとき、そんな場所に行ってやるのは初めてですから、そこそこ行ったんですけど。まあ、10人が残る決勝ラウンドあたりで間違ってしまうと「ダメだな」と思っているうちに、終了。次にそろばんを使うヤツは、なぜかトントンと上手くいって、決勝の3人に残ったんですよ。それで、やっていたときに、ふと気がついたら、市内の珠算教室に通っている生徒たちが回りにみんないて、3人を全員が見ている訳ですよ。その瞬間、プレッシャーになって。いやあ、もう手が動かないんですよ。で、そこそこの腕前だったんで、そろばんをはじいているときに、ひとつか二つ、余計にはじいているのがわかるんですね。ところが、そろばんというのは、答えを書くと、それは直せないんです。直すとかニングをしたと思われて、全部バツになってしまう。何のとき直せるかという、鉛筆が折れたとか、そういうときは書き換えて良い。だから、わざと芯を折ってやるんですけど、やっぱり間違ってしまった。それでも3位になってしまった。

で、たまたま、私の小学校の先生が別の珠算教室の先生をやっている「おまえ、来ていたのか」という話になって、「3位だった」と言うので賞状をもらった。「明日の朝礼で発表するから」と言われて。とにかく、あのときは緊張して参りました。大慈寺小学校は小さかったんです。小さいと言っても4クラス・50人だから200人（が学んでいた）。で、6年生までいたから、1,000人以上がいたんですね。その間、校長先生に呼ばれて表彰を受けて。あれは、もう唯一で、カッコいい栄光の瞬間。そのときだけでしたけれども。

そういったことで、次に中学校に行って。同じ教室で違う小学校から来ている仲間が、同じ中学校に行って、その連中といろいろやっていて、先ほど話した月・水・金の最後の（時間の）教室に全員、入ったんです。そうすると…要するに「珠算部」というものが中学校にあるんですけども、仲間の一人だけがそっちに入って、みんないろいろな運動部とか、他のところに入って、「大会のときだけ、助っ人に出てくれ」というので、出たんですけども、1年生と2年生は全然ダメでしたけれども、3年生のときは私…山の上にあります城東中学校なんですけど…そこで3年生のときは大会がありまして、そのときに団体、個人総合…個人総合というのは、足すヤツと割り算・かけ算の3つあるヤツの合計点数で順位を決める分、その他団体戦、読み上げ、暗算。全部、我が中学校が優勝したんですよ。全優勝。私は団体戦のメンバーでしたけど、あとのほうは2位とか3位でしたけど、暗算は優勝する雰囲気はあったんですが、私、暗算で3桁、4桁は得意だけど、1桁はダメ。1桁の暗算って難しいんですよ。足すのが。先生が言った数字をバツと送りながらやっていけば良いんですけど、1桁だと、それが上手くいかないんですよ。それで、苦手。今でも覚えていますけど、決勝ラウンドでいっしょにいた奴が、1桁が得意な同じ教室の生徒でした。ニヤニヤしているのが後ろから見えました。案の定、負けましたけど。そういうのがあって、一応完全制覇ですから。それから、県大会というのがあった。ところが、ビックリしましたけど、県大会に行くと、「完全制覇で行っているから、我々も、そこそこやれるな」と思って行ったんですけど、大会前の、いわゆる練習するのを見ると、我々行った仲間全員で顔を見合わせましたよ。指さばきを見れば、我々

もそここのところに行っているのわかるんですが、スゴかったんですよ。で、あとで聞いたら…変な話、田舎の小中学校は、それほど多くない。だからいろんなところに特化するんですね…だから、卓球だとか野球だとか、全部が特化している。で、珠算も特化している学校があって、もの凄く上手かった。我々は、本当にカルチャーショックでしたね。そういったものがいろいろあったんですが、そういった中で、我々が一番憧れていたのは、珠算で段を取ること。これは小学校の頃から、我々は挑戦したんですけど、なかなかダメで、最後のほんのちょっとのところまでダメになるんですけど。そういったことが、思い出であります。

本当に、そういう時代でございました。まあ、特に皆さんにはどうこうという話ではございませんでしたけれども、ご清聴をありがとうございます。

例会報告

第6回例会
平成30年8月10日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・ 司 会 坂本広行会長
- ・ ロータリーソング (我らの生業)
- ・ 会長報告 坂本広行会長
- ・ 誕生祝 下道利幸君・豊岡正幸君
- ・ 結婚祝 豊岡正幸君
- ・ 幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・ 委員会報告

【ニコニコBOX】

◆齋藤和好君…日本尊厳死協会東北支部の盛岡支部大会が、9月16日(日)アイーナ7階にて開催されます。タイトルは、「変わってきています、緩和医療」で、基調講演とパネルディスカッションの二部に分けて行なわれます。参加費は無料にて、どなたでも参加できます。受付にパンフレットを置いてあります。どうぞご覧の上、お出かけ下さい！

●メーカーアップ

地区=田中・荻野君。
盛岡西R.C.=佐藤(義)君。
盛岡東R.C.=熊谷(祐)君。
盛岡中央R.C.=栗田君。
盛岡西北R.C.=伴君。
クラブ委員会=藤村(文)・福田・島山・金沢・勝部・勝・近藤・佐々木・佐藤(仁)・米内・吉田(育)君

出席報告

会員数/75名

出席数/46名

出席率/63.01%

前々回/77.46%



プログラムのお知らせ

- ・ 8月24日(金) 卓話 西館 政美会員「地方新聞社の事業部」
- 31日(金) ゲスト卓話 室岡てい子様(盛岡芸妓)
- ・ 9月7日(金) 新入会員卓話 櫻下 信会員
- 14日(金) 特別休会①
- 21日(金) ゲスト卓話 タンバンペンズントン シラナットさん(米山記念奨学生)
- 28日(金) 卓話

●本号編集担当/諏訪 泰幸